

中学校 1年()組 ()番 名前()

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、1年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。生徒がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを生徒に説明しましょう。

入学当初に卒業時のイメージを抱かせることが難しい生徒もいます。第2学年、第3学年と記述が大きく変わる生徒も出てきますが、記述を見比べることで、自己の成長を実感させることにもなりますので、記述時点の思いを大切に書かせてください。小学校のシートを参考にしながら、記述させることも考えられます。教員のものさしだけで判断するのではなく、生徒の記述を肯定的に捉えて評価をしましょう。

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

- 自己を認識する力
自分は何が好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力のことで
- 自分の人生を選択する力
自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力のことで
- 表現する力
自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる力のことで

1学期

1学期で目指す、なりたい自分の姿

卒業時の自己の目指す姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定させてください。目指す姿が書けない生徒は、頑張ることを書かせてもよいです。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「なりたい自分の姿」などを基に記述させます。振り返りの視点は、生徒が自分で設定します。今学期頑張ったことなどを考え、自由に設定して構いません。学期ごとに違うことも考えられます。自分で設定することが難しい児童の場合、教職員が例示し、選択させるという方法も考えられます。

また、「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など生徒の努力を自覚できるようにし、頑張っていることとして、肯定的に捉えられるよう支援をしましょう。

2学期

2学期で目指す、なりたい自分の姿

前の学期と内容が同じになる生徒もいます。頑張りを続けていることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

()

()

()

3学期

3学期で目指す、なりたい自分の姿

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

()

()

()

1年間を振り返って

がんばったことや学年のためにしたこと

どんな些細なことでもよいです。自分の成長を気付かせてください。学級活動等で、他者からの評価をもらうことも有効です。これまでの小学校のシートと比較し、自分の成長を振り返ることで、この1年間の成長を実感させることも考えられます。

自分のよいところや、得意なこと

友達同士で、お互いに頑張っていたところやよかったところを語り合う活動を取り入れることも考えられます。

将来は、こんな大人になりたい

頑張ったことや自分のよいところを振り返った上で将来のなりたい自分について、じっくり考えさせることが大切です。また、なりたい大人像や就きたい仕事を考え、それと日々の生活と結び付けることも重要です。児童の記述が不十分と感じた場合、記述内容を認めた上で「そう思った理由やきっかけ」を考えさせ、記述させましょう。

先生や家の人から生徒の頑張りができるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、生徒が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった生徒に対しては、生徒自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。

中学校 2年()組 ()番 名前()

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、2年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。生徒がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを生徒に説明しましょう。

卒業するときにはこんな自分になりたい

卒業時のイメージを抱かせることは難しい生徒もありますが、当欄の記述が、1年次から段々と記述が変化していくことで自己の成長を実感させることもできます。教員のものさしだけで判断するのではなく、生徒の記述を肯定的に捉えて評価をしましょう。

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

- 自己を認識する力
自分は何が好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力のことで
- 自分の人生を選択する力
自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力のことで
- 表現する力
自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる力のことで

1学期

1学期で目指す、なりたい自分の姿

卒業時の自己の目指す姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定させてください。目指す姿が書けない生徒は、頑張ることを書かせてもよいです。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「なりたい自分の姿」などを基に記述させます。振り返りの視点は、生徒が自分で設定します。今学期頑張ったことなどを考え、自由に設定して構いません。学期ごとに違うことも考えられます。自分で設定することが難しい児童の場合、教職員が例示し、選択させるという方法も考えられます。

また、「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など生徒の努力を自覚できるようにし、頑張りを認めることとして、肯定的に捉えられるよう支援をしましょう。

()

2学期

2学期で目指す、なりたい自分の姿

前の学期と内容が同じになる生徒もいます。頑張りを認めることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

()

()

()

3学期

3学期で目指す、なりたい自分の姿

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

()

()

()

1年間を振り返って

がんばったことや学年のためにしたこと

どんな些細なことでもよいです。自分の成長を気付かせてください。学級活動等で、他者からの評価をもらうことも有効です。1年生のシートと比較し、自分の成長を振り返ることで、この1年間の成長を実感させることも考えられます。

自分のよいところや、得意なこと

友達同士で、お互いに頑張っていたところや良かったところを語り合う活動を取り入れることも考えられます。

将来は、こんな大人になりたい

頑張ったことや自分のよいところを振り返った上で将来のなりたい自分について、じっくり考えさせることが大切です。また、なりたい大人像や就きたい仕事を考え、それと日々の生活と結び付けることも重要です。児童の記述が不十分と感じた場合、記述内容を認めた上で「そう思った理由やきっかけ」を考えさせ、記述させましょう。

先生や家の人から生徒の頑張りができるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、生徒が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった生徒に対しては、生徒自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。

中学校 3年()組 ()番 名前()

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、3年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。生徒がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを生徒に説明しましょう。

卒業するときにはこんな自分になりたい

2年生までのキャリア・ログを振り返ることで、なりたい自分にどこまで近づけられたのか、更なる到達点の目標ができたかなど、現時点での自己評価を基になりたい自分を考え、自己決定させましょう。

1学期

1学期で目指す、なりたい自分の姿

卒業時の自己の目指す姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定させてください。目指す姿が書けない生徒は、頑張ることを書かせてもよいです。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「なりたい自分の姿」などを基に記述させます。振り返りの視点は、生徒が自分で設定します。今学期頑張ったことなどを考え、自由に設定して構いません。学期ごとに違うことも考えられます。自分で設定することが難しい児童の場合、教職員が例示し、選択させるという方法も考えられます。
また、「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など生徒の努力を自覚できるようにし、頑張りを認めることとして、肯定的に捉えられるよう支援をしましょう。

()

先生からのメッセージ

先生から生徒の頑張りができるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、生徒が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。

2学期

2学期で目指す、なりたい自分の姿

前の学期と内容が同じになる生徒もいます。頑張り続けていることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう
()

()

()

()

先生からのメッセージ

)より

これまでの9枚の「キャリア・ログ」で振り返りながら

1 「なりたい自分」に近づくためにがんばったことや、影響を与えた出来事(思い出)は

キャリア・ログ等を見ながら今までの自分を振り返り、自分ができるようになったことや気付くことができたことなど、成長したことを整理しましょう。きっかけとなったり、影響を受けた出来事と関連付けたりして書くように支援しましょう。

2 私のよいところは

自らの成長を振り返ることで発見した、自分のよさも含め、多面的・多角的に自己を見つめ、肯定的に捉えることができるように声掛けをしましょう。

3 中学校卒業後、()で頑張りたいこと(夢)は

()には、上級学校や職場等、目指している次のステージが入ります。来年度から始める新しい生活に向け、挑戦したいことや、抱負等を表現させましょう。

4 大人になって目指したい「生き方」は

「大人」について、何歳頃の自分をイメージするかは生徒が決めますが、書きにくい生徒には、社会人として数年が過ぎている30歳頃をイメージさせましょう。大人になって、夢や目標にどのようにアプローチしているかなど、「自己実現」の視点で考えられるよう支援をしましょう。小学校第6学年の「しょう来は、こんな大人になりたい」等を見比べることも、自分の成長や変化を実感することにつながります。

家の人など

「これまでの9枚の『キャリア・ログ』で振り返りながら」の記述から、頑張りを認めたり、これからの成長に期待したりするメッセージをお願いします。

自分のことばでだれかに語ろう(表現してみよう)